参考資料

宇宙科学・探査小委員会で交わされた意見（概要）

＜意義や成果等＞

〇かつての米国、ソ連、現在の中国のように、単独で有人宇宙活動を目指す国もあるが、我が国において有人宇宙探査を行うのであれば国際協力は必須になるのではないか。その上で、我が国が有人宇宙探査に関与するメリットは何かについてしっかり整理する必要があるのではないか。

〇国際的なプレゼンスを確保するための枠組みをどのように構築していくのか、戦略的に考える必要があるのではないか。枠組みの検討と合わせて、国として本当に培いたい技術の検討が必要ではないか。

〇我が国がＩＳＳへの参加で培った、有人宇宙活動を支える技術の継承という点は整理すべきではないか。

〇「科学探査」の視点からは、有人探査でなければできないことはないのではないか。「有人」によって得られるものは何かについて、海外の動向も見ながら考える必要があるのではないか。

＜目標や資金の在り方＞

〇米国の動向が最も重要であると考えられるが、我が国が参加する場合、何を、どこまで、どの程度のコストをかけることになるのか等、アセスすることが重要ではないか。

＜学術としての宇宙科学探査との関係＞

〇科学探査はボトムアッププロセスだが、今後、国家プロジェクトとしての探査に協力する場合、科学の視点からの評価を行う必要があるのではないか。

〇ISAS は科学ミッションの計画を実現する場であることを明確にすることが重要。国家プロジェクトに協力することにより、科学ミッションが揺らぐのは良くない。

〇有人宇宙探査において学術的な探査を行える機会があれば、科学コミュニティが有人宇宙探査に参加することは宇宙科学の発展にとって有効である。ただし、これは宇宙科学探査をボトムアップで着実に実施できることが前提となる。

＜その他＞

〇将来の宇宙科学探査をしっかり考えているというメッセージを研究者に明確に打ち出すべき。

〇低軌道について、米国は民間に開放し、中国も積極的に開発を進めている。その中で、我が国として低軌道も含めてどのように対応していくのかについても、ＩＳＥＦ２に向けた国際有人宇宙探査の議論とは別途検討すべき。

〇米国ではスペースＸなど民間企業が宇宙探査に積極的に参加している。我が国の検討においても民間と協調していく観点は重要となる。